

会 議 録

会議の名称	令和５年度第２回白岡市参画と協働のまちづくり審議会
開催日	令和５年５月２９日（月）
開催時間	午後１時３０分 から 午後４時２０分 まで
開催場所	白岡市役所 ４階 会議室４０４
会長の氏名	渡部 勲
出席者（出席委員）の氏名・出席者数	渡部 勲、増田政史、中島勝夫、林 修嗣、門田晴奈、小森あゆ子、岡安 学 ７人
欠席者（欠席委員）の氏名・欠席者数	堀切俊介 １人
説明員の職・氏名	生活経済部長 神田 正 地域振興課 主幹 中野立士 地域振興課 主査 市民協働担当 長島雅治 地域振興課 主任 市民協働担当 河野 彰
事務局職員の職・氏名	地域振興課 主幹 中野立士 地域振興課 主査 市民協働担当 長島雅治 地域振興課 主任 市民協働担当 河野 彰
その他会議出席者の職・氏名	傍聴者 ２人
会議次第	１ 開会 ２ 挨拶 ３ 会議事項 （１） 令和５年度第１回まちづくり審議会の振返りについて （２） 自治のあり方検証（行政）について （３） その他 ４ 閉会

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
事務局（神田部長）	1 開会 神田部長の進行により会議が開会した。
渡部会長	2 挨拶 渡部会長から挨拶がなされた。
事務局（長島主査）	3 会議事項 (1) 令和5年度第1回まちづくり審議会の振返りについて 事務局から資料1に基づき、令和5年度第1回会議で出された意見等について説明がなされた。
渡部会長	前回、地域ごとの状況が異なる中、全体的な状況把握ではどうしても捉えられないという意見があった。そういった状況をどうやって把握していくのかが課題ではないか。
A委員	(質疑) 今後の白岡を担っていく若年層の意見をどうやって捉えていくのかという意見があった。地域ごとに平均年齢なども異なると思われる。今後、行政としてどのように対処していくのか考えはあるのか。
事務局（中野主幹）	そういったことも意識はしている。昨年度、男女共同参画プラン策定におけるアンケートの際は、学校、保育所、白岡高校などに直接アンケートを持ち込んで、若い方の意見を伺う工夫をしている。しかし、市全体として、若い人の意見をどう把握するかなどの方針は定まっていない。
渡部会長	一人ひとりニーズは異なる。すべて応えることはできないが、どのように吸い上げて行政に反映していくのかは大事なテーマである。アンケートに限らず、それ以外の方法も考えて行くべきであろう。ネットの活用なども一つのアイデアであろう。

B 委員	大勢の中では意見はあまり出ないが、井戸端会議的なところでは意見が出る。そういった意見をなかなか吸い上げられないということではないか。 年 6 回、班を分けて集会所の掃除を行っている。終わった後に懇談会を行っている。意見の中には実施に移しているものもある。そのように、話しやすい場を作り、吸い上げるようなシステムがあれば、地域ごとの意見も吸い上げやすくなるのではないか。
A 委員	一般的に自治会の運営は、事業計画などに基づいて行われている。もう一つ細かい意見を取り上げられるパターンがあってもいいのではないか。仕組みを変えていく必要がある。
渡部会長	市内全域で同じような仕組みの構築は難しいが、自分たちの問題と捉えて、そういった場を作っていくのか考えていく必要がある。自治基本条例の「市民の権利・責務」に関係してくるが、市民も考えていくべきである。
C 委員	白岡ニュータウンでは、自治会からの要請で、班会を開くように言われている。項目なども示されている。実際には、あまり開かれていないが、そういった仕組みをうまく活用していければいいかと思われる。
B 委員	ゴミ置場の問題などが発生したとき、班長会議を開いた後、それぞれの班に持ち帰り意見聴取をし、問題解決に繋げている。その際、別の問題なども提起されることがあり、小さな集まりの大切さを感じた。
A 委員	班長さんは、若く、働いている方が多いかと思う。うまくいく場合といかない場合があるだろうが、それぞれの行政区（自治会）にあった取り組みをしていくのがよいかと考えた。
D 委員	アンケートの意見では批判的な意見が多いように思われる。そう

	いった方については、あまり地域活動に参加していない方が多いのではないかと。実際に活動している方との意見の違いを把握することも大切ではないかと。また、活動をしている方は、市民と行政の中間的な立場でもあるので、そういった方を通じて意見を吸い上げることも有効ではないかと。
E 委員	アンケート結果にもあるが、言葉が難しく、言ってる意味が分からない方もいるのではないかと。相手にとって分かりやすい説明を心掛ける必要がある。
A 委員	情報を知る権利を市民ももっと行使する必要がある。市民活動をする中で、そういったことも含め参画していく必要があるのではないかと。
B 委員	最近では、活字離れが進んでいる。文章だけで伝えるのは限界が来ている。漫画など違うアプローチをするなど工夫が必要ではないかと。
A 委員	漫画でないにしても、目で見えて理解できるような工夫が必要ではないかと。
F 委員	意見を行政に伝えるという市民側の意識が変わらないといけなのではないかと。どこで何を言えば伝わるなどの土壌を少しずつ作っていく必要がある。中々急には変えられないと思う。無関心は良くない。自治会を通して意見が上がっていくような土壌が必要である。
渡部会長	率直に、参画と協働の意識は上がっていると思うか。
A 委員	印象的には下がっているような気がする。 アンケートの結果などを見るとそう考えられる。
E 委員	市民活動については、イベントなどを見ても、少し上がっている

	ような気がする。
C 委員	自分の経験から、小さなイベントであればできるのではないかな。 人を集めるのは中々難しい。
渡部会長	イベント等については、増えているような感じがする。
D 委員	横ばいから若干下がっているような気がする。 若い方などは、市内ではなく、別のところにコミュニティを持っているような気がする。別のところで活動しているので、白岡は住むところという感覚があるような気がする。そのため、若い人の参加が減ってきている恐れがある。 また、声が届くと考えられれば意見も出てくると思われるが、アンケートにしても声が届かないと考えている人もいるような気がする。声が届くと思えば好循環が生まれてくるのではないかな。
B 委員	何か問題が生じてても身近な同世代の知人などで抱え込んでしまっている。コミュニティがあれば、もっと多彩な人と共有できるのではないかなと思われる。
A 委員	自治会の防災訓練にできるだけ子供が参加してもらえるように積極的にPRしている。きっかけが大切ではないかな。
B 委員	山地区では、3つのイベントを予定している。わんぱく広場、防災キャンプ（一晩テントで過ごす）、夏祭りである。参加はしていただけるが、役割分担は難しい。
渡部会長	まずは、参加のハードルをできるだけ低くして、たくさんの人に参加してもらうことが大事ではないかな。その中から、企画に参加していただける方を一人でも増やしていくしかないのではないかな。負担が先にくると難しい。自分たちのためになるんだという良さを実感していただくことが必要ではないかなと思われる。

事務局（長島主査）	(2) 自治のあり方検証（行政）について 事務局から資料２、３について、説明がなされた。 引き続き、ワークショップが行われた。 ４ その他 事務局から事務連絡がなされる。 次回会議予定、６月２８日（水）午後１時３０分から ５ 閉 会
議事のでん末・概要を記載し、その相違なきを証するため、ここに署名する。 令和 年 月 日	